

21年度中間決算 決算説明資料

2021年10月
株式会社タダノ

Tadano Ltd.

<注意事項>

- 本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいており、リスクと不確実性を含んでおります。
- 需要、シェアの取り扱いについて：需要台数は当社推計にて10台単位に四捨五入、シェアは小数点以下を四捨五入しております。また、需要にはロシア国産、中国国産の中国市場向けは含んでおりません。
- 資料内の略称について：TCはトラッククレーン、RTはラフテレーンクレーン、ATはオールテレーンクレーンを表します。

- ✓ 中間期としては19年度以来、2年ぶりに営業黒字
- ✓ 欧州事業再生関連収益等を特別利益に計上

(単位：百万円)

	20年度中間期		21年度中間期		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	91,106	100%	98,680	100%	8.3%
営業利益	-1,038	-1.1%	2,476	2.5%	-
経常利益	-1,590	-1.7%	2,246	2.3%	-
親会社株主当期純利益	-2,566	-2.8%	11,387	11.5%	-
設備投資額		3,242		1,970	
減価償却費		2,457		2,664	
※設備投資にはリース資産分を含んでおります。					
USD		108.27円		107.69円	
EUR		119.30円		129.82円	

2

損益計算書

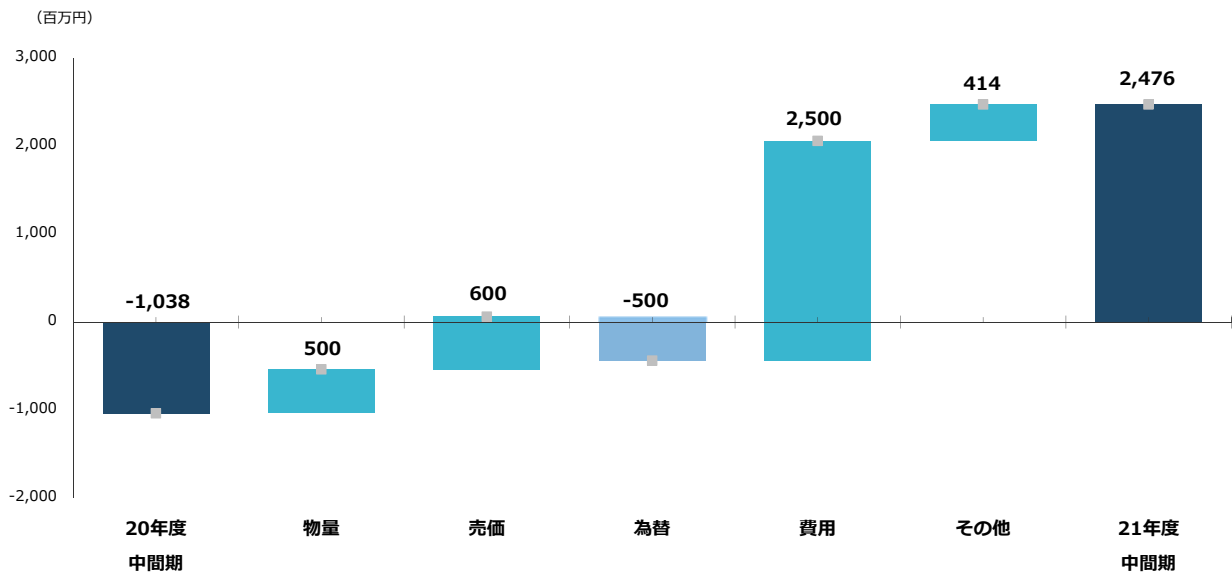
- ✓ 売上増加
- ✓ 欧州事業再生手続き効果による増益

(単位：百万円)

	20年度中間期		21年度中間期		比較増減
	金額	比率	金額	比率	
売上高	91,106	100%	98,680	100%	7,574
売上原価	72,805	79.9%	77,505	78.5%	4,699
割賦販売利益	32	0.0%	-	-	-32
売上総利益	18,332	20.1%	21,174	21.5%	2,842
販管費	19,370	21.3%	18,698	18.9%	-672
営業利益	-1,038	-1.1%	2,476	2.5%	3,514
営業外損益	-552	-0.6%	-230	-0.2%	322
経常利益	-1,590	-1.7%	2,246	2.3%	3,836
特別損益	85	0.1%	11,029	11.2%	10,944
税引前当期純利益	-1,504	-1.7%	13,276	13.5%	14,780
法人税等	1,051	1.2%	1,847	1.9%	795
非支配株主当期純利益	10	0.0%	42	0.0%	31
親会社株主当期純利益	-2,566	-2.8%	11,387	11.5%	13,953

3

✓ 物量増加や売価改善、費用圧縮等により35億円増加



貸借対照表

- ✓ 欧米の一時的な運転資金需要に対応する外貨建て借入増
- ✓ 欧州事業再生手続きによる退職給付に係る負債の圧縮

(単位：百万円)

	20年度末	21年度 中間期末	比較 増減		20年度末	21年度 中間期末	比較 増減
手許資金	103,110	110,006	6,896	仕入債務	32,043	35,582	3,539
売上債権	48,774	44,888	-3,885	有利子負債	94,586	100,847	6,260
たな卸資産	82,010	85,762	3,752	その他	51,885	40,201	-11,684
その他	5,254	10,565	5,311	負債計	178,515	176,630	-1,885
流動資産計	239,149	251,223	12,074	純資産計	145,404	158,786	13,382
有形固定資産	68,046	67,414	-632	負債・純資産計	323,920	335,417	11,497
無形固定資産	1,692	1,867	175				
投資その他の資産	15,031	14,910	-120				
固定資産計	84,770	84,193	-577				
資産合計	323,920	335,417	11,497				

	20年度 中間期	20年度	21年度 中間期
売上債権回転期間	88.9日	95.7日	83.2日
たな卸資産回転期間	206.1日	160.9日	159.0日
自己資本比率	49.3%	44.5%	46.8%

✓ 税引き前利益の増加や売上債権の減少により、営業CFは増加

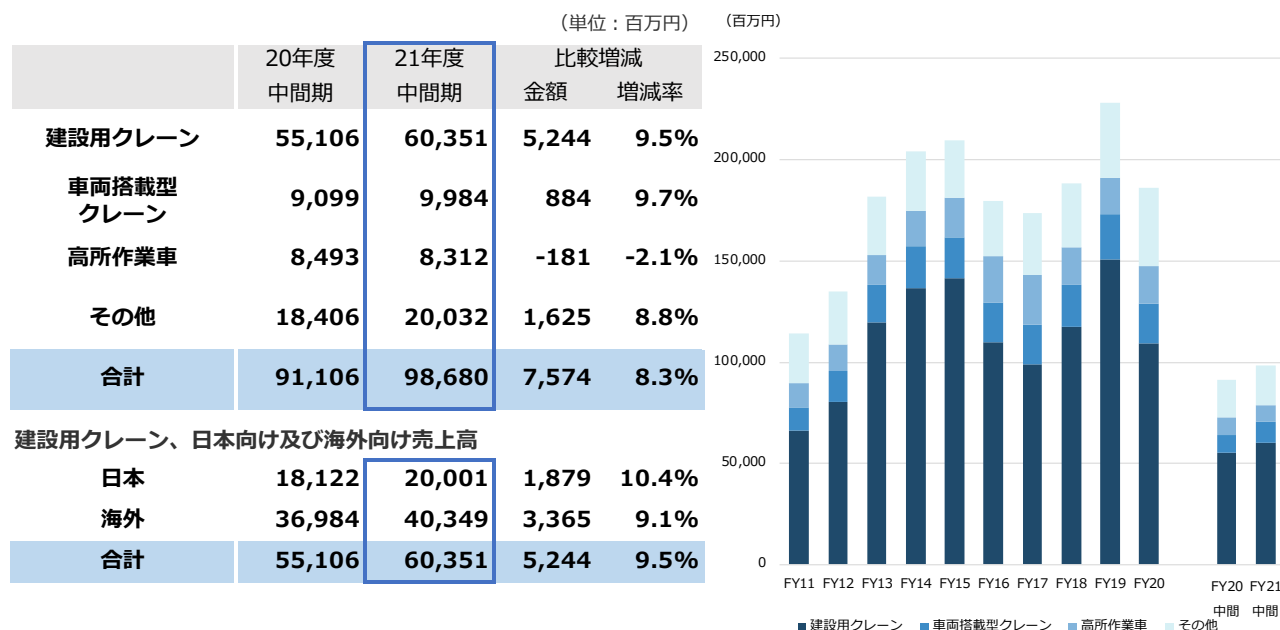
(単位：百万円)

		20年度 中間期	21年度 中間期	比較 増減
営業CF	税引き前利益	-1,504	13,276	14,780
	減価償却費	2,457	2,664	206
	売上債権増減	18,382	4,620	-13,761
	たな卸資産増減	-6,287	-1,177	5,109
	仕入債務増減	-15,244	2,518	17,763
	その他	428	-19,633	-20,061
	合計	-1,769	2,267	4,037
投資CF	合計	-2,010	-5,438	-3,428
財務CF	合計	20,294	4,503	-15,790
現金及び現金同等物の増減額		15,973	2,637	-13,336

製品別売上高

✓ 高所作業車を除き、全製品セグメントにて増加

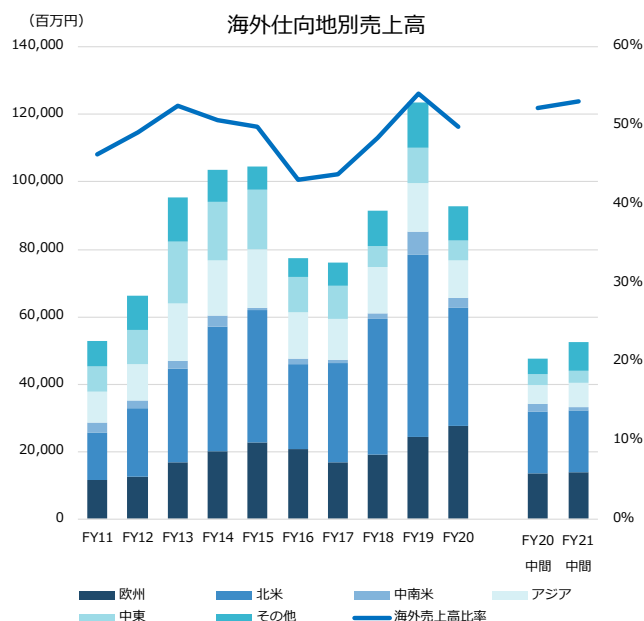
製品別売上高



✓ 中南米を除き、全ての仕向地で増加

(単位：百万円)

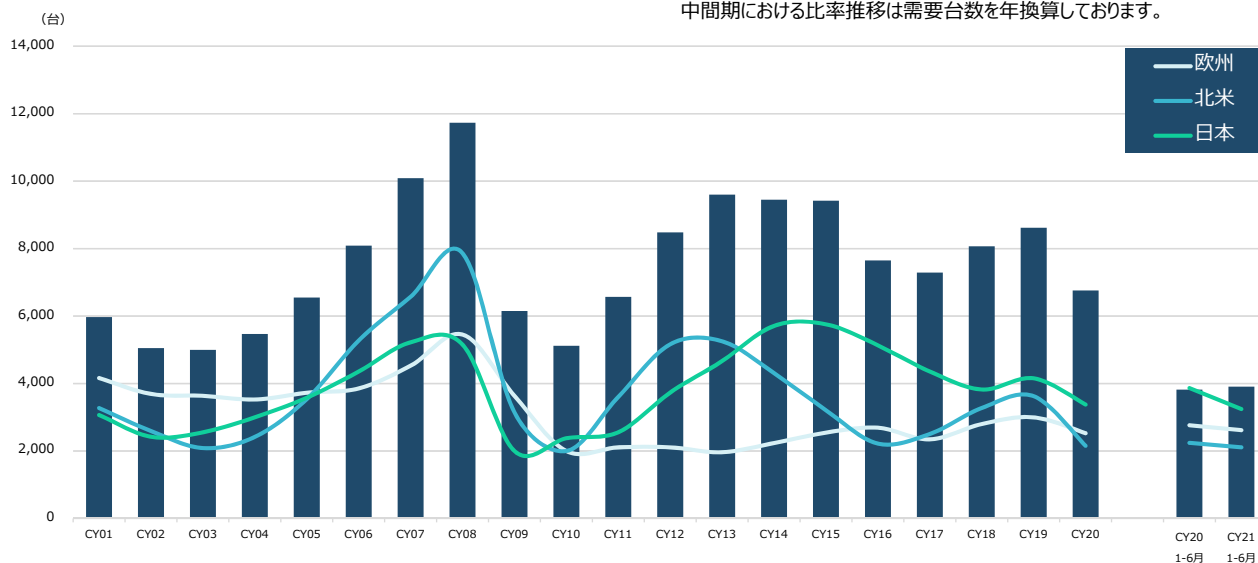
	20年度	21年度	比較増減	
	中間期	中間期	金額	増減率
欧州	13,675	13,960	285	2.1%
北米	18,385	18,405	20	0.1%
中南米	2,185	774	-1,410	-64.6%
アジア	5,421	7,237	1,815	33.5%
中東	3,445	3,716	271	7.9%
その他	4,475	8,273	3,797	84.8%
小計 (海外計)	47,588	52,367	4,778	10.0%
日本	43,517	46,312	2,795	6.4%
合計	91,106	98,680	7,574	8.3%
海外売上高比率	52.2%	53.1%		



建設用クレーンの世界需要推移 (暦年ベース)

折れ線は各市場の需要ボトムの基準年を1とし、各年の比率推移を表します。
(基準年 北米・欧州：2010年、日本：2009年)

中間期における比率推移は需要台数を年換算しております。



※数値は当社推計 (10台単位にて四捨五入)

※ロシア国産は上記に含まず

※CY10以降、中国国産の輸出含む

※中国国産の中国市場向けは上記に含まず。中国市場における中国国産の需要推移は次の通り

CY12：約2万2千台、CY13：約1万7千台、CY14：約1万4千台、CY15：約9千台、CY16：約9千台、CY17：約2万台、
CY18：約3万2千台、CY19：約4万2千台、CY20：約5万4千台

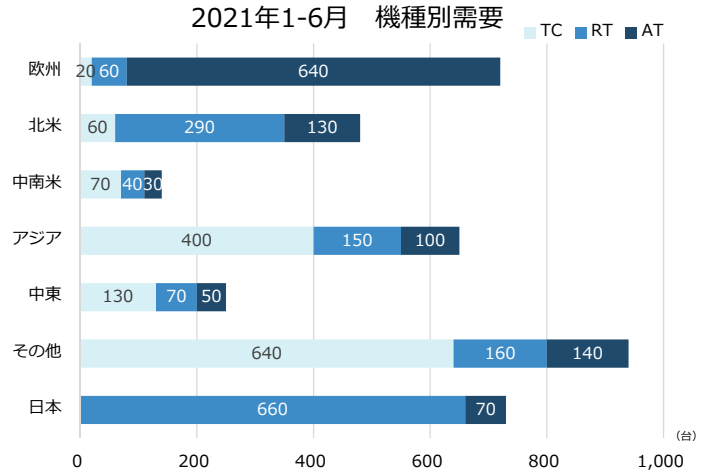
建設用クレーン (1-6月)

- ✓ 中南米、アジア、その他で需要が増加し、合計は2.4%増加
- ✓ 世界シェア 25%→20%



AC 7.450-1

	需要			シェア	
	2020年 1-6月	2021年 1-6月	増減率	2020年 1-6月	2021年 1-6月
欧州	760台	720台	-5.3%	13%	12%
北米	510台	480台	-5.9%	34%	32%
中南米	110台	140台	27.3%	17%	6%
アジア	630台	650台	3.2%	11%	8%
中東	270台	250台	-7.4%	24%	8%
その他	670台	940台	40.3%	8%	9%
海外計	2,950台	3,180台	7.8%		
日本	870台	730台	-16.1%	55%	50%
合計	3,820台	3,910台	2.4%	25%	20%



※TC:トラッククレーン、RT:ラフテレーンクレーン、AT:オールテレーンクレーン

日本市場 (4-9月)

- ✓ 台数シェア 53%→54%
- ✓ トン数シェア 55%→50%

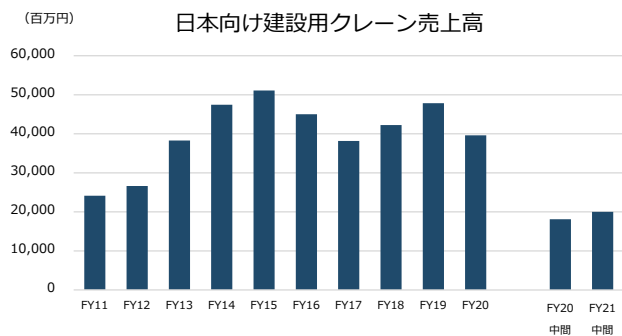
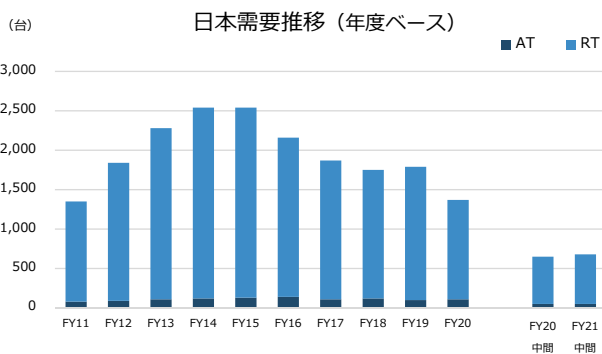
※上記シェアは年度ベース

(単位: 百万円)

	20年度 中間期	21年度 中間期	比較増減	
			金額	増減率
日本	18,122	20,001	1,879	10.4%



GR-100N



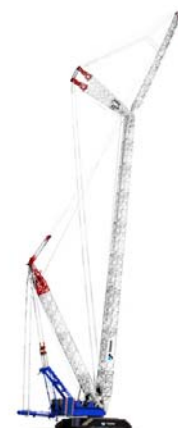
※ AT: オールテレーンクレーン、RT: ラフテレーンクレーン

- ✓ 需要は減少、売上は横ばい
- ✓ シェア 13%→12%

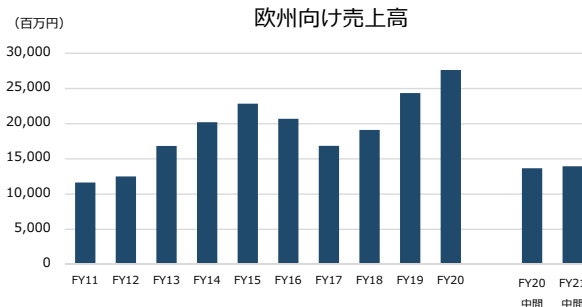
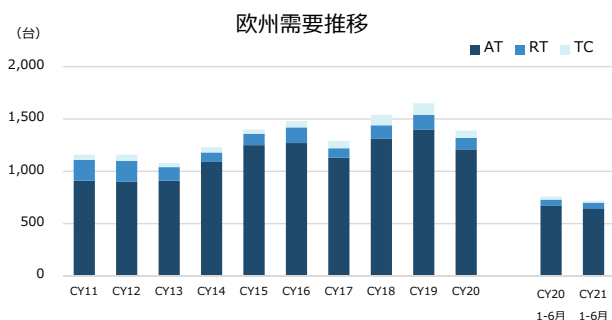
(単位：百万円)

	20年度 中間期	21年度 中間期	比較増減	
			金額	増減率
欧州	13,675	13,960	285	2.1%

※建設用クレーン以外も含む



CC 88.1600-1



※ AT：オールテレーンクレーン、RT：ラフテレーンクレーン、TC：トラッククレーン

- ✓ 需要は減少、売上は横ばい
- ✓ シェア 34%→32%

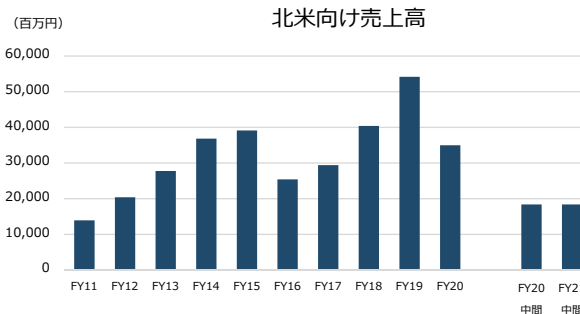
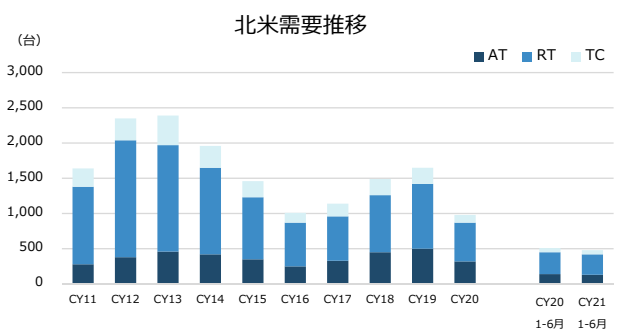
(単位：百万円)

	20年度 中間期	21年度 中間期	比較増減	
			金額	増減率
北米	18,385	18,405	20	0.1%

※建設用クレーン以外も含む



GR-1300XL



※ AT：オールテレーンクレーン、RT：ラフテレーンクレーン、TC：トラッククレーン

✓ 中南米を除く全ての地域で増加

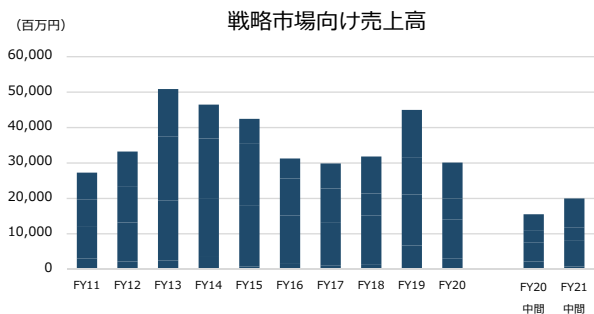
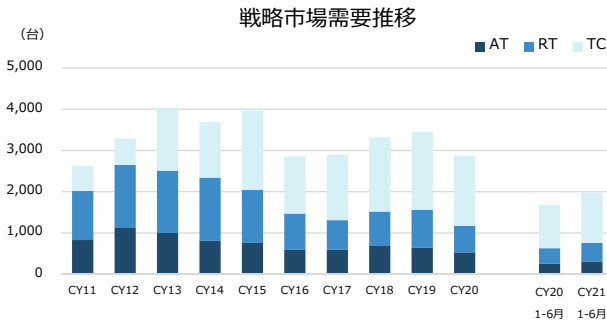
(単位：百万円)

	20年度 中間期	21年度 中間期	比較増減	
			金額	増減率
中南米	2,185	774	-1,410	-64.6%
アジア	5,421	7,237	1,815	33.5%
中東	3,445	3,716	271	7.9%
その他	4,475	8,273	3,797	84.8%
合計	15,527	20,001	4,473	28.8%

※建設用クレーン以外も含む



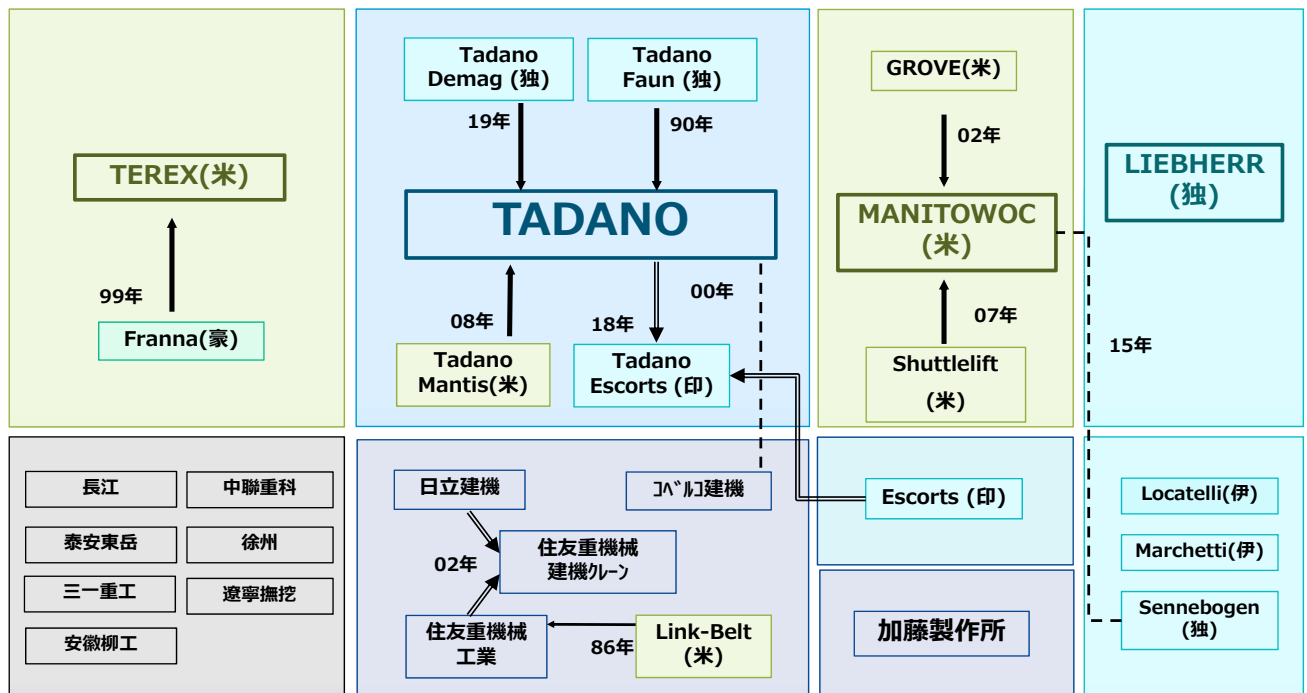
GT-600EL



※ AT：オールテレーンクレーン、RT：ラフテレーンクレーン、TC：トラッククレーン

※ 戦略市場は日本・欧州・北米を除いた当社独自の市場区分

クレーン業界図(油圧式クレーンメーカー・クローラクレーンメーカー)



徐州=XCMG Xuzhou Construction Machinery Group、
中聯重科 =Zoomlion、三一重工=Sany、安徽柳工=Liugong

*日本建設機械工業会資料より、当社作成

——> 買収を示す。(数値はその年度)
- - - -> 提携を示す。(数値はその年度)
====> 出資・JVを示す。

車両搭載型クレーン

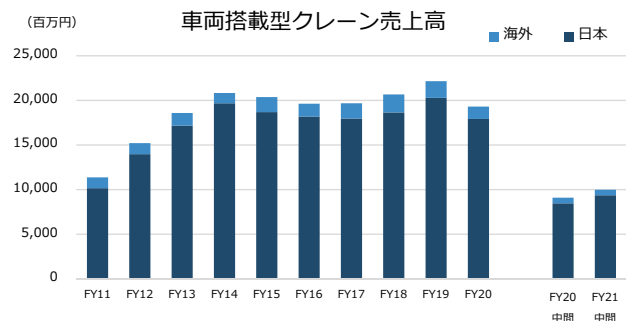
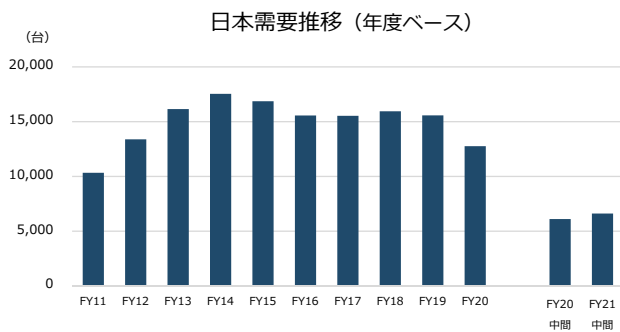
- ✓ 日本シェア 48%→48%
- ✓ 日本売上は需要が増加し、前年同期比10.6%増加

(単位：百万円)

	20年度 中間期	21年度 中間期	比較増減	
			金額	増減率
日本	8,471	9,365	894	10.6%
海外	628	618	-9	-1.6%
合計	9,099	9,984	884	9.7%



ZX360/300シリーズ



高所作業車

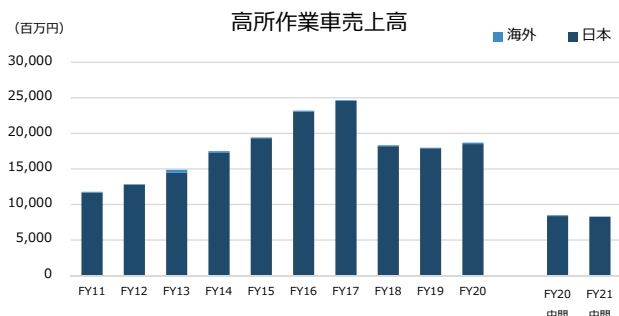
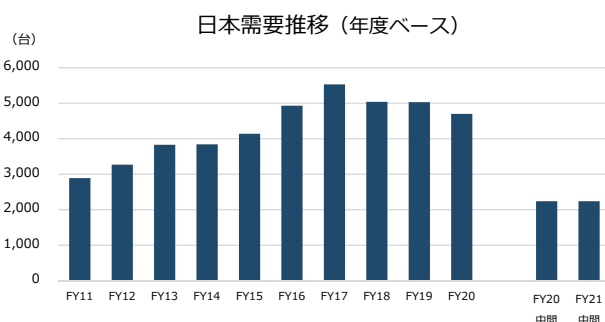
- ✓ 日本シェア 34%→32%
- ✓ 高付加価値商品の拡販に注力したものの、需要の減少により前年同期比2.1%減少

(単位：百万円)

	20年度 中間期	21年度 中間期	比較増減	
			金額	増減率
日本	8,370	8,285	-84	-1.0%
海外	122	26	-96	-78.6%
合計	8,493	8,312	-181	-2.1%



AT-320XTG



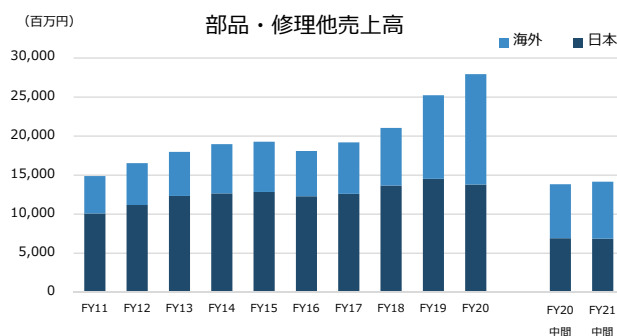
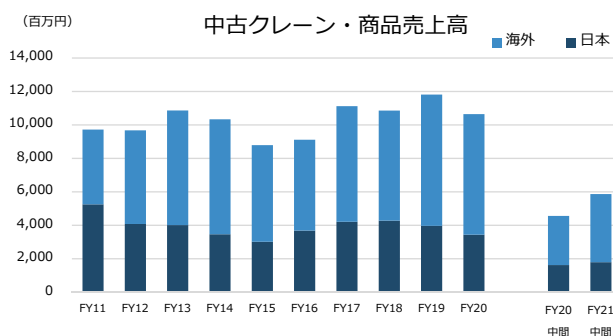
✓ 部品、修理、中古車等のその他売上は増加

(単位：百万円)

	20年度	21年度	比較増減	
	中間期	中間期	金額	増減率
中古クレーン 商品	4,561	5,873	1,311	28.8%
部品・修理他	13,844	14,158	314	2.3%
合計	18,406	20,032	1,625	8.8%



門型油圧リフター：TB-1000



21年度業績予想

(単位：百万円)

	20年度		21年度		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	186,040	100%	215,000	100%	15.6%
営業利益	-4,196	-2.3%	4,200	2.0%	-
経常利益	-4,683	-2.5%	3,400	1.6%	-
親会社株主当期純利益	-12,987	-7.0%	10,500	4.9%	-

USD	106.82円	下期	110.00円
EUR	121.81円	下期	130.00円

※下期における為替レート（USD・EUR）を10月29日付けで変更しております。

1株当たり配当金	中間	0.00円	中間	3.00円
	期末	3.00円	期末	4.00円
	年間	3.00円	年間	7.00円

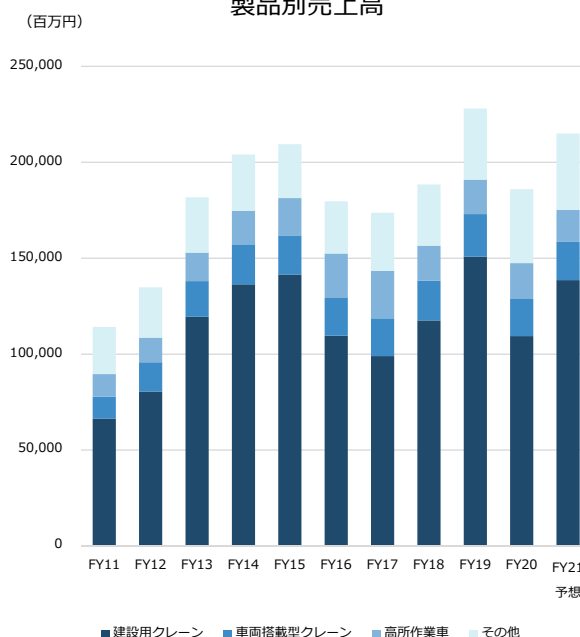
通期の業績予想は、受注状況は順調なもの、部品調達の遅滞による生産の混乱、それによる欧州での生産遅れ長期化、世界的な原材料価格高騰等の影響が見込まれるため、修正は行っておりません。なお、配当予想も修正しておりません。

21年度製品別売上高予想

(単位：百万円)

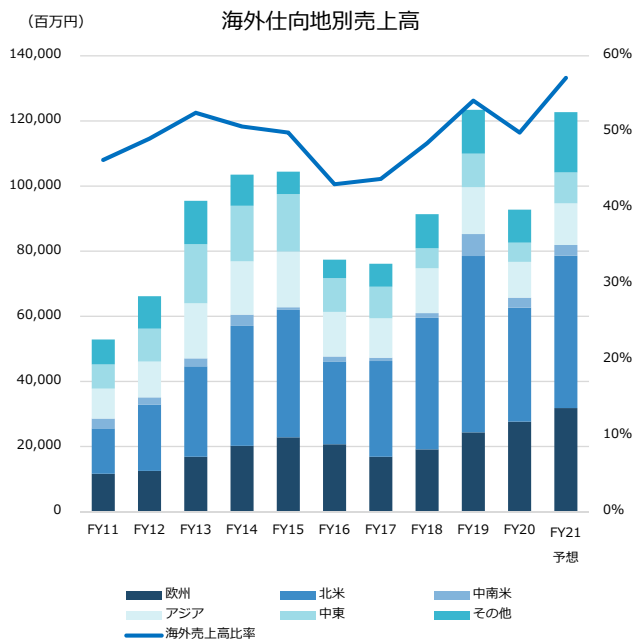
	20年度	21年度 予想	比較増減	
			金額	増減率
建設用クレーン	109,430	138,600	29,169	26.7%
車両搭載型クレーン	19,314	19,900	585	3.0%
高所作業車	18,701	16,700	-2,001	-10.7%
その他	38,593	39,800	1,206	3.1%
合計	186,040	215,000	28,959	15.6%
建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高				
日本	39,615	40,300	684	1.7%
海外	69,815	98,300	28,484	40.8%
合計	109,430	138,600	29,169	26.7%

製品別売上高



(単位：百万円)

	20年度	21年度 予想	比較増減	
			金額	増減率
欧州	27,631	31,800	4,168	15.1%
北米	35,001	46,800	11,798	33.7%
中南米	3,092	3,300	207	6.7%
アジア	11,013	12,800	1,786	16.2%
中東	5,898	9,500	3,601	61.1%
その他	10,126	18,500	8,373	82.7%
小計 (海外計)	92,763	122,700	29,936	32.3%
日本	93,277	92,300	-977	-1.0%
合計	186,040	215,000	28,959	15.6%
海外売上高比率	49.9%	57.1%		



※上のグラフには日本を含んでおりません。
 ※その他は、オセアニア、アフリカ、CISを含んでおります。

TOPICS ~ブランディング強化~

✓ ブランド統一による「ONE TADANO」推進

本年4月に発表した製品ブランディング強化について、製品ブランドとして長らくご愛顧いただいた「Demag」「Mantis」ブランドを、製品の型式や標準色を統一することで、全て「Tadano」ブランドへ統一。また、今年度中にTFG・TDG初の共同開発機種も発売を控えており、LE世界No.1という長期目標を達成するため、「ONE TADANO」として製品ブランド力を強化し、より良い製品・サービスを提供していく。



✓ 日本市場向けラフテレーンクレーン GR-130NL/N (2W) 発売

従来発売をしていたGR-130NL/N「1ウインチ仕様」に加え、市場からの強いご要望にお応えし、新たに2ウインチ仕様を新設定。フックの掛け替え対応が不要になるなど、更なる製品ラインナップの拡充により、お客様の多様な作業のニーズ応える。「燃料消費モニタ」や、「エコ・モード」といった環境対応機能も搭載する。



✓ 日本市場向けラフテレーンクレーン GR-250N CREVO250 G5発売

CREVOシリーズ5世代目となる「CREVO250 G5」はクレーン操作時の新機能や、環境性能に優れたディーゼルエンジンの採用により、環境への配慮と作業効率が向上。また公道走行時の視認性改善により安全性・操作性が向上し、快適で安全なクレーン走行を実現。さらに「Lifting Solution」によるデジタルデータ・デジタルサービスの提供により、効率的で安全な作業をサポートする。



✓ AT-320XTG「第51回 機械工業デザイン賞IDEA 審査委員会特別賞」を受賞

日刊工業新聞社が主催する「第51回機械工業デザイン賞IDEA」において、当社の高所作業車「AT-320XTG」が「審査委員会特別賞」を受賞。当社は機械工業デザイン賞において過去3度の受賞歴があり、今回が4度目の受賞となる。

「長年にわたって培った大型クレーン技術と高所技術を融合させた成果は、ブームの軽量化技術や制御機器二重化による安全性を基盤として、他社の追随を許さない仕上がりを見せている。」と、審査委員会から高い評価を得た。



✓ 日本市場向け高所作業車 ハイパーデッキ AT-530CG発売

国産として最大地上高と最大作業半径を誇るAT-530CGを発売。車両は汎用トラック架装の車両総重量25t未満の新規格車として、高速道路や主要幹線道路において通行制限なしで走行可能な車両で、高い機動性を発揮する。地上風力発電設備の建設やメンテナンスなどの環境保全に寄与する現場や、高架道路・橋梁、建築物、大型施設などのインフラの長寿命化につながる現場での稼働が見込まれる。



✓ ソリューションサービスを建設・測量生産性向上展に出展

5月12日～14日にかけて、幕張メッセで開催された第3回建設・測量生産性向上展（CSPI-EXPO）において、当社が取り組む「Lifting Solution」で試験提供を開始したソリューションサービスの展示を行った。

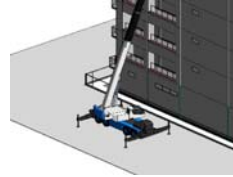


<建設・測量生産性向上展の出展内容>

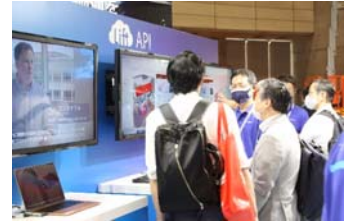
- ・ Lift API：当社が提唱する、API 群の総称。デバイスやアプリケーションの違いによらず、実機の性能演算機能やテレマティクスデータを、インターネットを介して提供する仕組み。



- ・ BIM モデル：建設機械のモデルをBIMの要素として利用したいというニーズに応え、当社グループの建設用クレーンBIMモデルを提供。当社グループの建設用クレーンを用いた施工計画をより容易に行っていたことが可能になる。



- ・ ゲンバデサポート：「ゲンバデサポート」は、当社カーゴクレーンをお使いのお客様向けのスマートデバイス・アプリ。作業現場で起こる操作確認やトラブルの対応など、お客様の困りごとの解決をサポートする。



建設・測量生産性向上展の様子

✓ 風力発電関連製品をWIND EXPO [秋] 風力発電展に出展

9月29日～10月1日にかけて、東京ビッグサイトで開催された第1回 WIND EXPO [秋] 風力発電展において、当社の風力関連製品をパネル展示した。Demag事業買収後に当社製品ラインナップとして加わったクローラクレーンを始め、風力発電の建設やメンテナンス作業で活躍する超大型オールテレーンクレーンや、国産最大の地上高と作業半径を誇る新型高所作業車など、高まるクリーンエネルギー需要に幅広く対応する当社製品ラインナップをアピールした。



風力関連製品やソリューションサービスをビデオやパネルで展示

<風力関連製品の作業事例>



港湾で風車の部材積込を行うクローラクレーン



陸上で風車のブレード据付を行うオールテレーンクレーン



洋上風力発電向けの荷役作業を担うダビットクレーン（現在開発中）

✓ 第一回「ビーチクリーン活動」を実施

SDGsのゴール14である「海の豊かさを守ろう」に繋がる瀬戸内海の豊かさを守る目的で、ビーチクリーン活動を開始。10月2日に一回目の活動を実施し、ごみ拾いや集めたごみの調査を行った。また、NPO法人アーキペラゴ様による海ごみに関する講座を開催し、海ごみによる魚への影響など、海岸の清掃活動を通じて海の環境について理解を深めた。



高松市の海岸でごみ拾いをする様子

✓ 再生可能エネルギー導入の拡大

カーボンネットゼロに向けた取り組みの一つとして、当社初となるPPAモデルによる太陽光発電設備を香西工場に導入。工場の屋根約20,000㎡にPPA事業者が太陽光設備を設置し、当社が工場で全量を自家消費するPPAを締結し、10月より稼働を開始した。初年度の自家消費量は126.4万kwhを見込んでおり、これによって香西工場の使用電力の約18%に相当するCO₂を削減できる見込み。



香西工場の屋根に太陽光発電設備を導入

PPA = 「Power Purchase Agreement」 (電力販売契約)